

## 令和 6 年度淀川区区政会議 第 2 回コミュニティ力向上部会

日 時：令和 7 年 1 月 1 4 日（火）

午後 6 時 3 0 分～午後 7 時 4 1 分

場 所：淀川区役所 6 階会議室

### ○大西政策企画課長代理

皆さん、こんばんは。

定刻となりましたので、ただいまより令和 6 年度淀川区区政会議第 2 回コミュニティ力向上部会を始めさせていただきます。

私は、本日の進行役を務めさせていただきます淀川区役所政策企画課長代理の大西と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

以降は、座ってお話しさせていただきます。

委員の皆様には、御多忙のところ御出席いただき、誠にありがとうございます。

委員の皆様、傍聴の皆様に御案内させていただきます。

本日の会議は、公開となっております。また、議事録等の作成のために録音させていただきます。そして、本日の会議の様子は、Y o u T u b e を通じて配信しておりますので、御了承のほどよろしくお願いいたします。

なお、携帯電話は電源を切るか、マナーモードに切り替えていただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料を確認させていただきます。

本日の議題の裏面に配付資料一覧がございますので、そちらを御確認ください。

まず、委員名簿及び座席表になります。続きまして、（資料 1）区政会議における意見等も対応方針、（資料 1 別紙）令和 7 年度淀川区運営方針（案）になります。そして、（資料 2）個別テーマごとの意見交換についてになります。

資料１につきましては、事前に送付させていただいております。お持ちでない方は、お手を挙げていただけますでしょうか。

続きまして、本日配付資料についてお伝えさせていただきます。

本日の配付資料の、よどマガ！１月号の特集記事になります。続きまして、区政会議のアンケート、続きまして、よどマガ！１月号、御意見票、淀川区区政会議 日程調整表、返信用封筒になります。

また、区政会議における御意見への対応方針、事後対応内容という、資料も、つけさせていただきます。

資料が足りない方は、お手を挙げていただけますでしょうか。資料は大丈夫でしょうか。

(「はい」の声あり)

#### ○大西政策企画課長代理

そうしましたら、進めさせていただきます。

現在、区政会議委員の９名中、８名が出席です。定数の２分の１以上の委員が出席ですので、会議が有効に開催されていることを御報告させていただきます。

続きまして、淀川区選出の市会議員に御出席いただいておりますので、御紹介させていただきます。

今村議員です。

#### ○今村議員

本日は、よろしくお願いいたします。

#### ○大西政策企画課長代理

なお、役所の職員の紹介は、時間の都合上、省略させていただいております。座席表に職員名と役職を記載しておりますので、御参照いただきますよう、よろしくお願いいたします。

本日の終了時間ですが、午後８時終了をめどに考えております。

それでは、次第３以降につきましては、議長、副議長に会議を進行していただきたいと存じます。

山本議長、よろしくお願いします。

#### ○山本議長

皆さん、こんばんは。寒い日が続いていると思いますが、インフルエンザ等、お気を付けてください。地域では餅つき大会も中止になった地区もあるみたいなので、皆さん、体には十分御注意ください。

本日、議長を務めさせていただきます、三国地区の山本です。本年もどうぞよろしくをお願いします。

すいません、この後着座にて、お話しさせていただきます。

それでは、次第３、区政会議における御意見への対応方針についてということで、区役所より説明をお願いいたします。

#### ○田口政策企画課長

こんばんは。政策企画課の田口でございます。本年もどうぞよろしくお願いします。

座って説明いたします。

資料について、事前に配付した分と本日配付した分が混在していますので、丁寧に御説明したいと思います。

資料１というのが、右肩についているＡ３のものでですね。まず、ホチキス留めしている分が区政会議における御意見への対応方針です。全部で１２項目ありますので、こちらを先に説明差し上げます。

先ほど申し上げたとおり事前に配付しておりますので、詳細については割愛をさせていただきたいと思っているんですが、１点、ナンバー１について、湊委員からも御指摘ございまして、地域福祉におけるアウトリーチの具体化と予算ということで、それに対しましては、今回、資料１の別紙としてつけております、令和７年度淀川区の運営方針（案）ということで、ここで、経営課題の１、地域福祉の推進に向けた具体

手法であるアウトリーチの表記がないということで、主な戦略プランにおいて加筆修正しておりますので、御確認願えたらと思っております。

続きまして、本日配付した分がございまして、これも同じく資料 1 というのが右肩につけておる A 3 の 1 枚物でございます。項目が全部で 4 つありまして、これは何かといいますと、令和 5 年 1 0 月以降、今いらっしゃる委員さん、就任いただいたところですが、この間、貴重な御意見・御提言をいただいておりますので、では実際、区役所としてどういった事後対応をしてるのかというのを今回お示しした一覧になっております。

1 つ目、令和 5 年 1 1 月 2 7 日、田中研志委員のほうから、運営方針、体力の向上についての具体的な記載がないということで、この点につきましては、体力の向上について運営方針の追記しているという中身でございます。

ナンバー 2、令和 6 年 3 月 1 3 日、湊委員から御指摘いただいております。これは区政会議の開催時期ということでございます。予算の要求段階から予算の大阪市会提出までの間に区政会議を開くべきではないかという御意見でございます。それにつきましては、実際に昨年、予算要求段階であります令和 6 年 9 月 1 1 日の全体会議において、関連予算案について意見聴取を実施しております。

ナンバー 3、令和 6 年 3 月 1 9 日、田中研志委員のほうから御指摘いただきました、子ども・子育てに関する取組としまして、子育てサロンと子ども・子育てに関する取組について知らないという人が多いという意見が出まして、周知方法について議論が必要ではないかという意見をいただいております。これにつきましては、事後対応内容というところを見ていただければいいかと思います。

加えまして、本日、カラー刷りの A 4 の資料についての説明になります。子ども・子育てに関連する情報を大阪市の公式 L I N E や淀川区役所の公式 X を活用して、短文で分かりやすい言葉を用いて発信しています。また、淀川区役所のホームページを更新するときなどに、スマホ画面で見やすくなることを意識して、ページトップに関

連イメージ画像を取り入れるなどして、ホームページを見てみようと思っていただけるよう取り組んでおります。

加えまして、淀川区役所の広報誌よどマガ！１０月号にて、Ａ３のカラー刷りでお示ししておりますとおり、特集号ということで掲載しております、淀川区子育て支援施設マップということで、実際に掲載をしております。

ナンバー４、これは令和６年５月３０日、杉原委員から御指摘いただきまして、人生ノートを区民全員に配布してはどうでしょうかということでございます。これにつきましては、今度また、広報誌よどマガ！１１月号で御紹介しております、本日つけておるのが、このカラー刷りの資料です。１１月３０日（いい看取り・看取られ）という４ページの特集記事です。

以上でございます。議長、よろしくお願いいたします。

#### ○山本議長

田口課長、説明ありがとうございます。

この次第３、区政会議における御意見への対応方針について、今の御説明等で何かもう少し詳しいことを聞きたいとかいう方がおられましたら、御意見頂戴いたしたいんですけれども、ございますでしょうか。

結構、湊委員、質問が多かったみたいですが、回答は十分でしょうか。

#### ○湊副議長

強いて言うと、この資料１のホチキス留めのナンバー１１ですね。要は、よどマガ！がいろんなマンションで配付されてるんだけど、そのままごみ箱に行ってるというようなもったいないケースをよく見てるものですからというようなことを書いた上での御回答なんですけどね、マンション管理人様などから配付不要の希望があれば、その都度対応しておりますというのは、ぱっと聞いたらそうなんですけど、いや、たくさん捨てられてるから、じゃあ、配らないでおきますねってことで、いや、そもそものいいかどうかというのはちょっと、私はやや疑問があるといえはるんです。

ではどうすればいいのかというのは、私も答えを持ち合わせてないんですけどね。なので、結局は、後段に書いていただいている区民のニーズに的確にお答えするためにというところが、ぜひ御努力をということになるんですけども、どちらかと言うと、やっぱり重要性をいかに分かっていただくかというところにぜひ心を砕いていただきたいというのは申し上げたいところです。

#### ○西尾委員

それに関してよろしいですか。

今、ワンルームマンションのオートロックのところが多いんじゃないですか。だから、地域の配り物もなかなかできずに大変なんですね。管理会社へ電話しても、オーナーさんは住民にお任せしているとか、管理会社の管理人さんがいらっしゃるところも少ないですので、これは区役所さんの努力というか、やっていただいても捨ててしまわれることが多いのは確かなんです。だから、もうちょっと違う、それこそ全戸配布とかをやめるとか、どうにかしないと、これはもうどうしようもないと思いますよ。区役所の責任ではないと思います。私の考え方はそうです。

#### ○山本議長

西尾さん、ありがとうございます。

私も、このよどマガ！に関しましては、公募のときに関わった経験があるんですね。大学の教授及びマスコミの編集者の編集長の方と私と3人で、今回、今年というんですかね、今年度のこのよどマガ！を作っていただける製作会社を選定したことになりました。淀川区としましては、結局見やすい、何か親しみが持てるようなものですよね、文字を大きくイラストみたいなんをもっとたくさん入れるとかいう、そういうことを中心にやろうじゃないかということでやったわけなんですけども、やはり区役所というのは、いろんなことを区民の方に伝えないといけないということで、そっちの情報のほうが多くなって、結局あんまり変わってない。今までと中身はあんまり変わってないみたいなことにはなってしまうんですけども、目的としましては、こ

れを通して淀川区に愛着を湧かしていただいて、淀川区に定住していただけるようなものを作っていこうというコンセプトだけは、皆さん理解しておいていただきたいと思います。捨てる・捨てないは、もう個人の問題なんでね、どうしようもないとは思うんですけども。

私からは、以上です。

そうしたら、これに関しては、ここで御意見は終わりということで、次に参りたいと思います。

そうしましたら、個別テーマごとの意見交換について、今度は区役所より説明をお願いいたします。

#### ○大西政策企画課長代理

そうしましたら、私のほうから説明させていただきます。

今回、個別テーマごとに意見交換についてということで、資料２のほうを御覧いただけますでしょうか。

前回のコミュニティ力向上部会では、高齢者の孤独死と人生会議の人生ノートについての２つのテーマについて、区役所の取組を紹介させていただいた上で意見交換をさせていただきましたが、本日は、資料２の個別テーマごとの意見交換についてのとおり、人生会議、よどマガ！１１月号増ページに掲載した内容と、防災を通じたコミュニティ力の向上について、そして、区民の困り事の改善を目指した意見交換、この３つのテーマで自由に意見交換をしていただければと考えております。

まず、人生会議、よどマガ！１１月号の増ページの掲載内容につきましては、全体の部会において御意見をお聞きした、夢ちゃんマイノートの前段として、今回、記事のほうを掲載させていただきました。また、いい看取りの日である１１月３０日に、十三市民病院に協力いただきまして、認知症について理解を深めていただくために講演会等も開催させていただいております。

よどマガ！１１月号の掲載内容について、既に、御一読いただいてるかと思うんで

すけれども、こちらの掲載内容や来年も継続したほうがいい取組かどうかや、忌憚のない御意見をいただけたらなと思っております。

引き続きまして、防災を通じたコミュニティ力の向上について、よどマガ！1月号を御覧いただきたいんですけれども、こちらの特集ページ災害は突然起こります！というタイトルです。阪神・淡路大震災から今年で30年が経過します。災害はいつ起きるか分かりません。家族との話合いや見守り、人とのつながりなど、地域コミュニティ形成の観点から、意見交換もお願いします。その後、残りの時間で区民の困り事と改善を目指した意見交換をしていただければと考えております。

それでは、意見交換の時間とさせていただきますので、議長、よろしくお願いします。

#### ○山本議長

分かりました。

今、大西様より御説明がありましたように、個別テーマごとの意見交換ということで、まず初めに、11月号に載っておりました、人生会議11月号増のページの掲載内容についての御意見等はございますかということで、まず、一番最初に杉原委員、口火を切っていただけますでしょうか。

#### ○杉原委員

いい特集だと思ったんですけれども、後で考えましたが、私自身が何も記載してないんです。何となく怖いという感じで、自分自身がですよ。さて、これを嫁に渡すのか息子に渡すのか、渡し先が、いま一つはっきりしなかったものですから、今日、改めて情けないなと思ったのは、自分で書き込んでないということが残念でございます。今日中には書いて、女房に渡しておきます。

#### ○山本議長

この人生会議、この人生ノートという形で、最近、終活とかエンディングノートとかいう言葉、大分定着はしてきてると思うんですけれども、まず、目的というんです



かね、死に対する不安をまず解消。逆に、それを書くことによって不安になる方もおられるかも知れませんが、そういうのを解消するというのと、充実した老後の生活をどうするんだということを考える。あと、遺産のトラブルを防げるとか、家族の負担軽減になるとかということを分かるようにメモしておくみたいなの、そういう意味があると思うんですね。そういうことを考えることによって、老後の人生をいかに充実したものにしていくかということにもつながるというふうなことが、この人生会議の目的じゃないのかなと僕は思ってるんですけども、どうでしょうか。皆さん御意見、順番に一言ずつでもお願いします。鈴木さん、何かありますか。

#### ○鈴木委員

このエンディングノートにしても、渡されるだけでは、なかなか本当に皆さん書かないと思うんです。11月30日に、併せてやっていただいた認知症の方針も出たんですけども、あれは認知症に逆に特化していて、こういう人生会議というよりも傷病のことだったので、人生ノートの書き方の研修会、アニメーションも出てると思うんです。国のほうから出してると思うんですけど、人生会議ってなぜするのかという、子どもと親が話し合っているアニメーションとかも分かりやすくあるので、そういう動画とかも参考にしながら、研修会の中でちょっとでも書いて帰るという時間をみんなですべて、多分、個別の個人情報は大分多いと思うんですけど、そんな急には書けないので自分の名前だけでもとか簡単なところだけをみんなですべて書いて、持ち帰って、例えば冷蔵庫に貼っておくとか、皆さんしまい込んでしまうとみんな分からなくなっちゃうので、分かるようにしておくような取組をされても無駄にはならないのかなと思いました。

#### ○山本議長

ありがとうございます。西尾さん、いかがですか。

#### ○西尾委員

私は、40代のときに、自分がもし死んだらということで、誰に連絡してほしい。

それから、後のことはどのようにしてほしいとか、考えました。

○山本議長

すばらしい。

○西尾委員

私のことを思い出すときは、こういうふうに思い出してねとかいうのを書いてたんですけど、今見たら、よくこんなこと書いたなと思います。でも楽しいことばかり書いていました。

○山本議長

それ、いいことですよね。

○西尾委員

そうなんですけど、先日、大阪市の局のほうで、何ていうんですか、3Dみたいなものです。

○山本議長

3Dのこういうメガネのようなものですよね。

○西尾委員

あれをして、みとられるほうとみとるほうの映像を見に行ったんですけど、行きは、すごく皆さんしゃべりながら行ったんですけど、帰りはね、みんな自分になったらどうしようというのを考えるようになって、私もちょっと暗くなってたんですけど。また、この今度、冊子になって来たときは、入ってるなと思ったんですけど、今日頂いたので、またこれに書いたり、御近所の老人会の集まりのときに、皆さん、書いておいてよといって、これを印刷して渡そうかなと思っています。そうして皆さんに、楽しいことばかりいっぱい書こうなということを言おうと思っています。

○山本議長

そうですね、前向きなことを書くほうがよろしいですね、絶対。

○西尾委員

見る人も悲しいと思うんですね。私の、このときに書いたものを今、子どもたちが見て笑ってますからね。

○山本議長

そうですか、それだけ楽しいことを書かれたんですね。

○西尾委員

いろいろ夢を語ってますから。

○山本議長

ありがとうございます。

西垣委員、いかがでしょうか。

○西垣委員

今のところ、僕としては意見がございません。

○山本議長

分かりました。西岡委員、どうでしょう。

○西岡委員

僕も特に意見はないですけど、これを見てて、書けるところがないかと、ずっと思っていたんです。

○山本議長

書けるところがない、といいますのは。

○西岡委員

生まれたときのことなんか全然知らないとか、そんなことを思いながらずっと見ておったんですけど、書けるのは、もう延命治療は別にしなくてもいいとか、それぐらいしか思わなかったんで。そんなくらいでしょうかね。

○山本議長

ありがとうございます。

森さん、いかがでしょう。

○森委員

私は、この歳になっておりますので、もうこの問題は切実に感じておりましたので、自分の部屋の机に、決まった場所にこれはきちっと書いて、置いております。

○山本議長

もう記入されましたか。

○森委員

はい。

○山本議長

すばらしいです。

○森委員

やっぱりそれで、時々見直しましてね、今のまま、これでいいのかなとか、ちょっと変えることあるのかなとか、追加することがあるかなと考えながら、少しずつ追加しておりますけれども、こういう問題は、私にとってはいつ起こるいうか、もうすぐにも起こる可能性はありますので、やっぱり大事なことだなと思って、今回こういうふうにさせていただいてるというのは、非常にありがたいなと感じております。

○山本議長

湊委員、どうでしょうか。

○湊副議長

杉原委員のお言葉もあって、とてもいい取組をされたなというふうに思っています。

X（旧 Twitter）等でもこういうページがあるということを発信されてということなんですけれども、例えばこの内容そのものをSNSでも載せるとかということに、もうちょっと関心を引くようなやり方をされるのもいいのかなということですか、今ちょっとお話が幾つかあったと思うんですけど、どう言ったらいいんでしょう。切迫する状態にならないと書かないのかなという気もするんですけど、切迫した状態になったときには、もう遅いということになるわけですから、例えばこういう事例があ

って、やっぱり困ったみたいな事例が幾つか、皆さんも周りで聞かれたりしてるかも分からないんですけども、そういう事例もセットで書いてあると、やっぱり書くと、例えば家族とか近隣の方に対して、こういうふうに助かることがあるんだなというのが、実感として湧くかなと思うので、そういう事例も来年加えられたらどうだろうかということはちょっと思いました。

あるいは、西尾委員からありましたように、老人会の中でも使われるということでお話あったけど、まさに多分そういう話で、各町会さんとかに、このよどマガ！が出たときに、この増ページを入れているから、ぜひ活用してほしいというようなアナウンスがきちとなされたのかどうかというのが、ちょっと気にかかっているところです。そういうものがセットであれば、より有効に活用されるという部分があるのかなというの思っております。

最後に、これは医療とかケアのことに結構特化したような部分があると思うんですけども、もちろん幅広くなればなるほど大変になるから、どこまで入れるのかだと思うんですが、ちょっと今お話もあったかもしれませんが、やっぱり施設に入るときに、身寄りがいるとか、いないとかみたいなこととか、財産の管理がどういうふうになっていくのかみたいな、ほかにも幾つか課題があると思いますので、そういうことにも少し、その場面に立ったときに有効に活用できるような、何か気づきができるような項目が、もう少しあればよいのかなというふうに思いました。

以上でございます。

#### ○山本議長

いえ、ありがとうございます。

#### ○杉原委員

すいません。今、区役所のほうで緊急連絡の電話取りつけてますよね。一人ぐらしの高齢者が、うちで6人ぐらいいるのかな。例えば連絡先として、私も3名ぐらい担当してますけども、そういう方にはね、こういうものをぜひとも記入しといていただ

いて、何かあったら連絡くださいねとは言っているけど、連絡できない状態になったときに、今、湊委員がおっしゃったように、どの対応もできないんですよね。だから、緊急連絡を区役所と契約されてる方は、せめてこれは書いておいたほうがいいんじゃないかなということを1つ。

もう一つ、これはたまたま偶然なんですけれども、私、仕事のお手伝いで加島東のほうへ行っています。加島東、やっぱり市営住宅なんですけれども、友達ができまして、当時83歳でした。彼は、2023年の12月17日に亡くなりました。

○山本議長

おとしですね。

○杉原委員

ところが、その後たまたま、奥さんがその4か月前に亡くなって、自分もやっぱり不安になるんですよね。遺言書でも書いておいたらどうって僕が下書きをして、家財道具はどうするとか、連絡先はここにするとかというふうなことを便箋に3枚ぐらいに書き留めて、署名だけは、あなたがやってくださいよということで、署名していたんです。その3か月後に亡くなったんです。役に立ちましたね。特に部屋の整理と葬儀の段取りと、あと遺産というのは大してないですから、生命保険料をどうするかとか、そういう細かいことまで書いておったんですよ。だから、担当されたのが妹さんでしたから、今でも家にコピーを置いてますけれども、そこまで言える関係であればいいけども、例えば年上の高齢者の独り住まいの人に、できるだけ書いたらどうということは先ほど申した緊急連絡先の人にそこまでは言えません。

○山本議長

そのぐらいですね、言えるのは。

○杉原委員

後が楽ですから。一番助かったのが、葬儀のときと、それから保険料とか。

○山本議長

遺産のことですよ。

○杉原委員

そういったことで手続が、妹さんが、大変感謝してくれました。

○山本議長

それはそうですよね。

○杉原委員

たまたまだったんですけれども、そういうこともありました。

○山本議長

分かりました。そういう方々のためにでも、ぜひ湊委員の、これがあって助かったみたいな凡例等も加えて次回にまた掲載をお願いしたいです。

○湊副議長

来年もあつたらね、そうですね。

○山本議長

定期的にこういうことをずっとやっていかないと、1回きりでは駄目ですし、先ほどもありましたように、連合振興町会のほうの議案にはなかったです、これは。これに、これが入ってるんだよ、周りに周知してねというのはなかったですね、たしか。

以上であります。

そういったことも、振興町会、結構、地域住民の広報の役員もしてますんで、そういうことも案件に入れておいていただければ、ちょっとでも言う機会が出てくるかなと思います。よろしくお願いします。

そしたら人生会議の件につきましては、ここまでということにしまして。

次に、防災を通じたコミュニティ力の向上についてということで、日頃、皆さん、地域の役員とかされてるんで、いろんな取組をしておられるんじゃないかなとは思いますが、ちょっと御意見のほうも頂戴いたしたいんですけれども、今度は西岡さん、どうですか。

○西岡委員

毎年思うんですけど、防災というのは、どこの地域でも防災訓練とかやってると思うんですけど、内容的にはマンネリ化してるんだけど、やっぱり毎年防災訓練には出たほうがいいと思うんです。

○山本議長

防災訓練はね。

○西岡委員

別に、もう遊び感覚で出ても、うちの地域連合長会の会長が言っているんですけど、遊び感覚で出ても構わないから出なさいと。同じことばかり繰り返すけども、出たほうが絶対に、何か染みつくと思います。それによって、コミュニティというか、この人が出ている。あの人が出ているというよりも、顔が分かるようになるから、そういうのでコミュニティ力というのは絶対上がると思います。

○山本議長

つながりもできますんでね。

○西岡委員

つながりもできると思います。それは、もう毎年関わってて思うことです。

○山本議長

分かりました。ありがとうございます。

続きまして、西垣さん、いかがでしょうか。

○西垣委員

防災のことに関して、特に十三地域は、どうしてもマンションとかいろんな、人と接することに対してちょっと不安がってはるというのか、個の家庭より乗り越えられたら困るというような方は、意外と多いんですよ。

○山本議長



組み込まれるのが嫌だということですかね。

○西垣委員

だからそういう面で、どういうふうに通じていくかということに関しては、先ほどもちょっと言われたとおり、よどマガ！でも配ることに対する、何か一工夫も二工夫もないと、なかなかポストに入れるだけではなくて、やっぱり持っていくというのか、そういうようなことに関してのお話というか、顔を合わすとか、そうすることによって少しでも向上するという認識では持ってるので、配る人に関しては大変だと思いますけども、そういう意味で、顔を合わしたり、お話しするということに対して、もうちょっと意識を向上してもらわないとというふうにはちょっと考えますけどね。

○山本議長

ありがとうございます。そこで、よく森さんが言われております、挨拶ですね。コミュニティカの話について、何かありましたらお願いします。

○森委員

毎回、私がこの場で、淀川区に住んでてよかったなと。住民の方が言ってもらう、基本は何かというと、特にコミュニティということで考えたら、言葉で相手と話し合っ、お互いのことが分かるようにするというのが基本です。そうすると、スタートは挨拶です。挨拶にしても、いろんな挨拶があります。朝の挨拶も昼の挨拶も夜の挨拶もあるし、あるいは結婚式とかに呼ばれたときとか、逆にお葬式に呼ばれたときとか、使う言葉もいろんな言葉が挨拶の中であるわけです。

その中で、私は隣の人、向かいの人、こちら側の人にしても、その顔すら知らないというのが今現状なんです、マンションではお名前も、今は表札をつけておりません。

○山本議長

出さない人、いますね。

○森委員

だから、隣におられるのに音もしなければ、何1つ分からない。だから、こんな状

態では、とてもじゃないけど、いけないなと思って、私の住んでるところだけは、とにかく声かけておこうということで、行ったら何の用ですかとかよく言われるんですけども、同じマンションに住んでおりますから、何階の誰ですということで、声だけはかけるようにしてるんです。そのスタートの声かけから始まって、途中で擦れ違っても、頭を下げてくれるとか、ちょっとおはようとか言ってくれるようになったんです。昔は、擦れ違うだけで何にも言ってくれませんでしたけど、やはりちょっとずつでも挨拶の積み重ねというのは、その人とのつながりが濃くなっていくのかなというのは感じてるんですね。だからやっぱり挨拶は、大事だよと、若い人にも話はしてるんです。これからも、挨拶だけは、費用が一番かからず、これが大事だと思っていきます。

#### ○山本議長

ありがとうございます。その点、西尾さんも、町会で違う方に嫌がられるほどお声かけて、やっと振り向いてもらったというふうなことを前回お聞きしてたので、今回、この件に関しまして、何か御意見ありましたらお願いします。

#### ○西尾委員

今、うちの地域、防災にとっても力入れてまして、昨年の訓練からちょっと変えていってるんですが、避難所に全員が来られても、絶対入れないですし、なので、避難所に集まる前に町会ごとに集まる場所を決めています。

#### ○山本議長

一時避難場所ですね。

#### ○西尾委員

そこに集まって、おうちが大丈夫だったりしたら帰っていただくとか、御家族の隊長から人数を聞いておいて、そして公助ができるようになったら、いろんなものをお届けできるようになるかなということを話をするようにしてます。

あと、要介護リストとかで今、地区防災計画とか個別避難計画とかを始めましたの

で、できるだけ取りこぼしのないように、各町会長と一緒に回り始めたところですが、いざ行ってみますと、お独り暮らしかなと思ったら御家族がいらっしゃったり、お元気じゃないなと思ってた方がお元気だったり、反対の場合もありますけど、やっぱりお顔を見せるということが大事だなと思って、この頃は回っています。

あと、今、高齢者の方は、御家族が、家族以外の電話に出たらいけないとよくおっしゃってるらしくて、掛けても出られないんで、包括センターに行ってもらって、見に行ってくださいと頼んで、行ってもらってるんですけど、1回行ったらすごくお元気で、だから皆さんに、せめて福社会館と私の携帯番号ぐらいは連絡帳に入れといてもらって、何かしんどかったら、話はしなくていいからダイヤルを押すとか、そういうことをしていただいたら、10分か15分ではそちらに行けるよということ言ってるんです。だから、それをすごく今年は注意してやっていこうかなと思っています。

#### ○山本議長

ありがとうございます。いい取組だと思います。災害時に、どれだけ自分たちの地域の被害を最小限に抑えるために、そういった努力、要援護者を把握したりとか、その個別避難計画を作成したりとか、あと地域のガイドマップ的なもの、要するに防災計画ですね、プロジェクトの改訂版を配ったりとか、そういうことは必要になってくるかなと思います。ありがとうございます。

次に鈴木さん、どうでしょうか。

#### ○鈴木委員

どのテーマに関してもそうだと思うんですけど、防災とかに関しても、意識がある人とか興味がある人というのは、いろんな研修会とか、こういう集まりに集まってくれるんですけど、なかなかそこに興味を持っていただけないわけではないんですけど、時間がないとか、なかなかそういう場に出てこれない人たちをどうやって集めていって、情報共有をしていったらいいかなというのが課題なのかなと思ってまして。今月なんですけど、取組としては、地域のお寺でやっているマルシェで、防災ノートをみ

んなで書こうというワークショップを開催する予定にしています。これも最初は、来ていただけるのは興味のある方だけだとは思いますが、その方が、家族で勝手に持って帰ったりとか、御友人に広めるというツールにはなるのかなと思いますので、少しずつですが、そういうワークショップの機会をいろんなところで、変えて開催していただければいいのかなというのと。子どもたちを主役にした、そういう取組というのも大事なかなと思ひまして、消防訓練のときも消火器にお水をいれて訓練に使っています。

#### ○山本議長

水消火器ですね。

#### ○鈴木委員

あれもすごく楽しくやられてるので、そういうゲーム感覚で、何かの災害時のときの声かけの訓練だとか、いろんな取組のときに、今まで大人がやってあげるという立場から、子どもたちに助けてもらうという考えにちょっとずつシフトして行って、世代間で交流していきながら協力できる地域づくりが何かできれば、いろんな情報が欲しいなと思いました。

#### ○山本議長

ありがとうございます。今ありましたように、西岡委員も言っておられたように、地域の防災訓練というのは、毎回、消防の指導の下、同じような訓練ばかりしていると。それでも数年たてば役に立つよというお話と、遊び感覚、防災のイベントみたいな形でワークショップとかゲームコーナーなんかを作ったりして、子どもが来れば、その親も来るといふようなことで、口コミでどんどん、どんどん広がるような催物が何かできればなと思いますね。ありがとうございます。

続きまして、杉原委員、いかがでしょうか。

#### ○杉原委員

うちは、来月、防災訓練があるんですけども、子どもさんを集めるためだけじゃ

ないんですけども、餅つきをやってるんです。

○山本議長

それもいいことだと思います。

○杉原委員

焼き芋もやってるんです。子どもたちには、全セット配るんですね。大人の人には、お餅しか配りません。今おっしゃったように、そういう形で子どもたちにも参加していただいて、もちろん煙の訓練とか、それから消火器の訓練とか、子どもも参加してくれているんですけども。どうもね、鈴木さんがおっしゃったようにね、興味のある方はいいですよ。ところが、全く興味を示さないというか、先ほど森委員がおっしゃっていたように、挨拶しても返さない人がいるんですよ、やっぱり。七、八割の人は、ちゃんと挨拶を返してくれるんですけども、全く素知らぬ顔で通り過ぎる。そういう人に防災訓練どうのこうのを言いにくいし、言えないですね。だから、去年の能登地震で、昨日も九州で大きな地震がありましたけれども、阪神大震災から30年ということで、各民放もNHKもね、今、防災に対しての放送が多いですよ。できたら興味を持っていただきたいなというふうに思うんですけども、強制はできませんので、その辺りをどういうふうにすればいいのかなと。難しい問題だと思うんですけども。

以上です。

○山本議長

何か湊副議長ありますか、そこで、振り向いてもらうためにはみたいな意見はないですか。

○湊副議長

さっき西尾委員がおっしゃった、全員が避難所に入れないからという一言って、私、すごく重要やと思ってて、私はそのことを知らない人がほとんどじゃないかなと思うんですよ。

○山本議長

行ったら何とかなるみたいな。

○湊副議長

つまり何か、備蓄がなくても何とかなるわとか、行ったら入れるんじゃないかと思ってる人が、実はほとんどじゃないかなと思っていて、私もこういうようなところに関わらせていただくようになって、例えば淀川区の避難所の定員数とか調べるようになりましたけど、それは今もうすぐ19万人になろうとしてるけど、3分の1入れますかというぐらいですよ。もしかしたらもっと小さいのではないのでしょうか。

○山本議長

避難所だけだったらそうですね。

○湊副議長

結局、皆さん知らない。さっきの人生会議と一緒になんですけど、やっぱりちょっとその切迫感を、もっと出したほうがいいんじゃないかと思うんですよ。いや入れないですよ。あるいは、例えば避難所の運営一つ取ったって、結局、町会の皆さん方が中心になって運営されてるから回りますけど、それとて本当に大きな地震があったら、じゃあ人が充足するのか。自分もボランティアで関与しないと、避難所の運営すら難しいんじゃないかということを恐らく。

○山本議長

そこ自身が被災するわけですから。

○湊副議長

そうなんです。知らない方が非常に多いんじゃないかなと思ってのんです。だから、興味を持たせるように、実態はこうですよということは示したうえで、あなたも関与しないと、被災したときにきちとしたことにならないですよというのを、やっぱりもっともっと周知する必要があるなというのは思ってる場所ですね。ちょっと脅迫するみたいな話なんだけど、知らないと行動につながらないので。

○山本議長

だから、基本自主的に避難、何かあったら避難所へ行くんじゃないで、自分の家で何とかできることを考えていただく。けれども、その考えることすらしてくれないという、今、そのジレンマですね。

○湊副議長

まずやっぱり知らしめていくということと、もう一点あるのが、例えば今、町会の避難訓練というのは、基本的には、その町会の会員さんで回してるという感じになるんですかね、加入されてなくても参加できる。

○山本議長

できます。地域活動なんで、できます。

○西尾委員

基本的には回覧も回しますけど、掲示板にも各町会貼っていますし、いろんな方が来られます。

○山本議長

掲示も貼りますんで、参加については、大いに歓迎します。

○西尾委員

ところが、あまり若い人は、特に来ないです。

○湊副議長

やっぱり周知の仕方がなかなか難しいんですよね。でもそこも、私の木川南の知り合いでも、町会に入っていないので、しきたりになってるのか分かってないけれども、防災にはすごく興味があるというような方もおられたりしまして、どうやってそういう人を巻き込んでいくかというのは、私も答えを持ってないんですけど、まだまだ掘り尽くせてないことがあるかなという気はしています。

○山本議長

ありますね。掘り起こしていかないと駄目ですよ。

○杉原委員

万が一というときにさっきの人生ノートとね、つながってくると思うんですよ。いや、こんなん言うたらいけないですけども、何も起こってくれないほうがいいし、防災リーダー活動しないほうがいいんですけども。

○山本議長

それは、ないほうがいいです。

○杉原委員

だけど、今のお話聞いててね、大阪で、せめて震度3ぐらいの地震でも来てくれたらね、もう少し本気になるかもしれないなと。昨日の九州の地震を聞いてて、何かそんな気になりましたね。

○山本議長

杉原さんみたいに自分のことのように思う人と、何か遠い世界で起こってるような感じと思ってるんですよ。だから、個々の意識の持ち方、意識の高まり、人生ノートにしてもそうだし、危機感の持ち方ということで、この前もちょっと区長と雑談で、お会いすることがあって言ったんですけど、1月17日のMCA無線の訓練、あの日に半日でもいいから電気を止めたら、みんながあたふたして協力してくれるんじゃないかなと。MCA無線を持ってる人だけの訓練みたいなことになってるんで、いや、水、蓄えなかったわとか、そういうことがない限り、そういう危機感が感じられないっていう、話を区長にしてしまったんですけど。

○杉原委員

実は1月の3日にね、西宮原というか三国本町の木川第1住宅の6号棟で火事があったんです。

○湊副議長

ありましたね。

○杉原委員



はい。まだ救急車とか消防車が来る前に、僕、それ見てるんです。本人はというと、下着 1 枚で部屋から飛び出して、消防署へ連絡していました。すごい煙と鉄筋の建物で、これだけ火が出るのかということで、上層階 1 階でしたから。

○山本議長

全部上まで行きますもんね。

○杉原委員

はい。上層階の人が逃げられないですよ、廊下というか階段が火で、エレベーター止まってますし。だから、救急車が来て、消防車が来て、はしごで救出しましたけれども、たまたまその 1 階の前の部屋の方が、今うちの住宅に避難してきておられるんです。そういったときにね、例えばそれは火を出した人が補償せないかんのかもしれんけれども、できるわけないです。

○山本議長

ないんですか。

○杉原委員

はい。その人は自腹で 5 日間、ガーデンパレスで泊まって、市の住宅センターへ連絡して、うちの住宅、部屋が空いているからということで、世話してくれはったんですけれども。

さてね、そこの住宅の人たちは、今年の 4 月、5 月にもう転居されるんですよ。だから住むのは 3 か月ぐらいなんですよ。だから、3 か月ゆっくりしてと僕は本人に言いましたけれども。うちの役員に、自治会費はどうするのと言われました。もう避難生活ですから、頂かないでおきましょうと。住んでもることもほかの住民には、もう内緒にしておきましょうと。あそこの火事で逃げてきた人だというのは、もうそういう話だけが広がりますので、内緒にしておきましょうというふうなことを言ったんですけれども、火事だって災害ですから。

○山本議長

そうですね、火災は災害ですね。

○杉原委員

だから、実際さっき言った地震ではなくて、火事で、けが人はなくてよかったですけども、実際、避難を受け入れる側としたらね、さあ、どこまで避難したらいいのかというふうなこともありますから、大きな災害であれば、また別ですけどもね、そういったのもやっぱり災害の一つになりますので、難しい問題ですね。

○山本議長

そうですね、だから企業と連携したりとか、あるいはどこかの施設を開放してもらうようなこととか、そういうことはもう一時的なもんですけどね、焼け出された、水浸しになった。当分住むところがないとなれば、どこか代わりのところを見つけてあげるとかね。

○杉原委員

市営住宅センターが何て言ったかというたら、集会所で生活してもらえと。それは無理ですよ。

○山本議長

最悪、施設開放するといったら、そういう頭しかないのかも分かんないですけどね。

分かりました。ありがとうございます。

鈴木委員、どうぞ。

○鈴木委員

先ほどから町会のお話がいろいろ出てて、皆さんの町会に入っている方というのは、いろいろつながりがあると思うんですけど、転入してきた方とか、町会にどうやって入ったらいいか分からないとか、若い方に限らず高齢の方でも多いです。そういった方々は、どこで町会長とつながっていったらいいのか。どこに、どこから、皆さんが新しく入ってくださいとアナウンスをしていってるのかというのが分からないです。

○西尾委員

たしか1階の転入の窓口で、町会がありますよということを記載した冊子ありますよね。そういうものを渡されてると思います。

○山田市民協働課長

転入パックがあります。

○西尾委員

私の地域は、変わった人が来たなと思ったら、町会長さんに、あそこ変わった人が来てるから、変わった人というかね。

○山本議長

転入されてきたいうね。

○西尾委員

転入されてきているので、すぐ町会に入っていただくように話しに行ってくださいと言います。

○山本議長

各、そこそこの町会長任せみたいなことになってることがあると思うんですけど。

○西尾委員

1人で行けなかったら一緒に行ったりとかして、できるだけ入っていただけるようにしています。

○山本議長

マンションだったら、マンションの書類と一緒に町会案内みたいのをに入れていただいたりとか、そういう工夫されてるところはありますけれども、減ってるのは現状ですが、なかなか入ってくれないです。でもお子さんがいるところは、お子さんのためにということで入りたいという方もおられると思うんで、そういうアナウンスは絶対必要ではないかなと思います。

○鈴木委員

でもマンションでも、外国人の方がいらっしゃると、どうしてもアナウンス、つま

り言葉がというところと、やっぱり被災するときは同じマンションで、一緒に被災するので、お互いコミュニケーションを取っていかないといけないなと思うんですけど、そういうところもなかなか、転入してきた方とか、短期的に滞在する方というところが、近くでカバーできるような案があれば、何かいただきたいなと思います。

#### ○西尾委員

うちは、ビルごと寮のところがあって、全部外国人が住んでいるのですが、そこは会社のほうに私が連絡をして、いろいろなことを、町会にも入っていただいたし、お国柄が違うのでその方たちが大きい声を夜遅くに出したりとか、何か騒ぎが起こしたりされるので、そういうことがあったりしたときにお願いの電話したりしますが、やっぱり1軒だけ入ってるとこは、すごく難しいみたいです。

#### ○鈴木委員

西尾さんのところ、すごくカバーしてくれる方ばかりだでいいなと思います。

#### ○山本議長

みんながみんな、そういう方であればと思うんですけども。

#### ○西尾委員

本当に難しいですね。

#### ○山本議長

できるだけ地域の方々、皆さん頑張っておられるんで、聞かれたら答えてあげるようにしてあげてください。

ちょっともう時間もあんまりないんですけども、あと区民の困り事、改善を目的とした、その意見交換というのが3つ目にあるんですけども、ぜひこれちょっと話をしたいという方おられたら、お手挙げでお願いできますか。これ、どっちかいうたら区役所さんですよ。区役所さんからの質問的なことやね。

#### ○大西政策企画課長代理

これは、前の部会でどんな意見交換したいですかというときに委員の方から出た御

意見です。

○湊副議長

質問に対してどう答えたらいいんだと、それが結構難しい。

○山本議長

区民の困り事って言われても。

○西尾委員

いっぱいありますね。

○山本議長

はい。

どうなん、何を話しすれば、誰か御説明、お願いできませんか。

○田口政策企画課長

例えば区内の18地活協で、うちの地域でこんな困り事あるのだけど、そちらの地域でどう解決してるのかとか、そういうことですね。

○山本議長

お互いの地域でですか。

○田口政策企画課長

例えばそういうのもあるのかなと思います。

○山本議長

意見の交換、うちのところはこうしてるとかですね。

今回はもう時間はないので、改めてにしましょうか。それでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

○山本議長

そういう意味なので、自分とこの地域で困ってることとかいうのをまた考えておい  
てくださいということで、このお題は、ここで終わりたいと思います。

今回の議論を踏まえて、次回の部会で議論したいテーマについて、何か意見ござい

ませんでしょうか。今日の人生会議、防災を通じたコミュニティ力の向上も、また入ってもいいですし、これ以外に何か違うことを議論したいなという方がありましたら、ちょっとテーマをいただきたいんですが、何かありますか。

○森委員

話が変わるんですが、今年、もう数か月後に万博が始まりますね。どうでしょう。見通しは、成功するんですか。

○山本議長

成功するつもりではやってるみたいですけど。

○森委員

担当の方は、成功するんだとか、こんだけお金かけたんだから、お客様に来てもらわないと困ると。でも実際には、チケットも売れてませんね。

○山本議長

そうですね。

○森委員

昔の、我々が知ってる大阪の昔の万博は、6, 000万人とか来てます。今年は2, 800万人来てくれたらいいというような目標ですが、それ、半分すら達成できてない。ということは、見通しがかなりまずかったなと思います。担当の方に申し訳ないんだけどね。見通しが甘過ぎたんと違うかと思います。

フランスと競り合って万博取ったんだけど、フランスは、なぜ降りたんですかと思います。向こうは、ヨーロッパで戦争があるんですというようなことで、そういう世界的な情報から判断して万博はやめて、オリンピックだけにしましょうと、フランスは判断したんです。大阪は、そんなこと関係ないつもりで、誘致できたと喜んでいて、でも実際には、この時期になっても、まだパビリオンの完成をしないと、いろんなことで遅れております。

お客様が来ない万博なんて意味がないんです。そしたら何をするんだろうなと考え

てたら、小学生とか中学生を無料で招待しようとしています。

○山本議長

無料で招待していますね。

○森委員

頭数だけ増やしたらいいんじゃないかというような発想で意見が出ておりましたけど、そういうことでは駄目です。だからもう一度、あと3か月あるんだけど、やれることを全力でやって、何とか目標達成できるところまで提案していただいて、実施していただきたいと思うんですが、万博は、今のところ我々の近所の方に聞いても関心は持っておりません。

いかにまずいかというのはね、本当に、「万博行くの」と言うたら、「行かない」と言っています。「何で」と聞いても、「お金が高いから」とのことです。そういうことから話が止まってしまってるんだなと。だから、どうしたら安く、しかも東南アジアとかいろんな地域から来ていただけるのか。クルーズ船でも、世界中のクルーズ船、全部買い集めて、ピストン運転で人間を運んで、何万人、何十万人でも繰り返し繰り返し運んでくるようなことしたら、ちょっとぐらいは目標に近づくか分かんけど、今のところ、そんな案もないようです。だからちょっとね、勝手なこと言いましたけど、万博は今のところ成功しないと私は見ております。

○山本議長

そういう森委員のお言葉です。

○湊副議長

私、防災のことはね、やっぱりもっと深掘りしたほうがいいなって思ってます。

○山本議長

今回のテーマですね、そうですね。

○湊副議長

今日も、まだまだ言いたいこといっぱいあると思ったので、言いませんけど、次回

のテーマでお願いします。

○西尾委員

いっぱいあるので、話したらすごいです。

○山本議長

テーマは地域防災についてということをも、1 番目のテーマで、また次回ですね、次回の部会等でやっていただいて、先ほど言いましたように、うちの地域ではこんなことで困ってるんだと。結局、言っても町会に加入しないとかそっちの問題ですよ、恐らくほかの地域もそうです。それは防災の意識の低さとかそういうところにもつながっていきますし、そういうことで、次回何か、役所のほうから、またテーマいただいて、こちらからは、防災についてもう一度、深いところまで意見交換したいんだということだけお伝えします。

それでは、役所のほうから、事務連絡、その他ございましたら、説明をお願いしたいと思います。

○田口政策企画課長

区政会議に関するアンケートということで、両面刷りの資料でございます。これは 24 区、大体このフォーマットで区政会議の委員さんのほうにもう既に。年 1 回実施しておりますので、見ていただいたら、全部で 10 問ありますけど、前半のほうが全体会についてということで、後半が部会についてのアンケートですので、忌憚のない御意見をまた書いていただいて、メールもしくは郵送、ファクスで送っていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○山本議長

メール、郵送でもいいということですね、分かりました。

ぜひぜひ皆さん、アンケートにお答えいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

役所のほうからそれだけでしょうか。



## ○大西政策企画課長代理

次回の区政会議につきましては、3月中旬から下旬頃に、令和6年度第2回定例会議の開催のほうを考えております。本日配付しております区政会議日程調整表を1月31日までに提出いただきますようお願いいたします。

また、本日の会議で時間がなく、発言ができなかった御意見や御質問等がございましたら、また、お手元の御意見表に記載の上、これも同じく1月31日までに事務局のほうに郵送かメール、ファクスにて御提出のほうをお願いいたします。郵送の際は、返信用の封筒を本日置いておりますので、そちらのほうを御利用いただきますようお願いいたします。

## ○湊副議長

すいません、ちょっと1点だけ。来年度の予算編成過程で、淀川区の項目が、既にホームページに掲載されておまして、中身を拝見してるんですけども。この場で説明というのは、多分、あまりフェアじゃないと思うんで、そこまで申しませんが、木川南と西中島小学校の、要は統廃合の関連で、仮ですけど来年度7,000万ぐらい予算計上されているんですよ。私の記憶違いでなければ、9月の段階では、この項目に7,000万の予算は多分ついてなかったと思うんですけど。どのみちこの2校というのは、大まかに言うと、児童数の問題で廃校の方向なので、跡地をどう活用するかというのは、区民にとって非常に大事な話ですから、項目が入ってること自体はなるほどなと思ったんですけども、次回の全体会議では、ぜひこの項目でどんなことを進めていくのかというのは、きちっと区役所のほうから御説明があったらいいなと思っておりますので、ちょっと申し添えたいと思っております。

以上でございます。

## ○山本議長

ぜひ今の御意見のとおり、動いていただきますようお願いいたします。

そうしましたら、今日頂いた資料の後ろ3枚ですね、先ほど区政会議に関するアン

ケート、区政会議の御意見表、最後に、日程調整ですね、次回の全体会議の。この3枚、書ければ書いていただいて、封筒に同封していただいて、1月末までに発送していただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

そうしましたら、以上で本日の議題は終了となります。

他に御意見等ありましたら、1つ、2つは大丈夫なんですけどもどうでしょうか。区役所に対してでもいいですし、この部会に対してでも結構ですので、何か御意見ありましたらお願いいたします。

#### ○森委員

区役所の近辺に一番近い避難所というたら十三小学校だと思うんですけども、十三小学校に万が一避難した場合、大きい震災があって十三小学校に避難したときに、段ボールベッドとかバリアとか、段ボールでできる準備はできているんですか。それとも費用がかかるから、してないんですか。

#### ○山田市民協働課長

収容避難者数の分は、備蓄倉庫の場所の関係ではありません。区役所や各小学校に数名分とかはあります。だから、実際の小学校でも何百人と収容ができるんですけども、その人数分は、今のところ備蓄はないです。

#### ○森委員

ということは、体育館のフロアに毛布敷いて、ごろ寝の格好だけで、バリアはないということですね。

#### ○山田市民協働課長

大阪市全体としては、備蓄があります。それが、おいおいやってくるとそういうのが出来上がってくるということになります。

#### ○森委員

そういうなんもね、昔、30年前に私は、昔の阪神・淡路の震災のときに現場で体験してますのでね、ひどいあの震災。私、芦屋市のほうへお手伝いに行った覚えがあ

るんです。東灘区のほうに友人がおりまして被災してますんで、行ったときに、あの体育館の中でのごった返しぶり見たときにね、こんなことになるんかと思います。今、30年たって、そういうあれが起こったときに、どの程度まで工夫され、改善されていってるのとかということが気になったんで、最低でも段ボールベッドやバリアというか、プライバシー確保のため、それからトイレについてもできてるのかなというのが気になったもんですから質問させていただきました。

○山本議長

ありがとうございます。全人数の分は確保できてないということですよね。

○山田市民協働課長

大阪中で大きく7か所、備蓄倉庫がありますので、そちらのほうから持ってくるようになります。

○山本議長

小学校に備蓄する場所がないので。

○森委員

そうですね。どっかに掘ってでも、地下に倉庫を造ってというのはあれですけど。

○山本議長

どこか土地を提供してくれればできると思いますが。

すいません、ありがとうございました。

それでは、ここで進行を事務局のほうへお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。

○大西政策企画課長代理

すみません、山本議長、議事進行ありがとうございました。委員の皆様、貴重な御意見ありがとうございました。

市会議員の皆様におかれましては、お忙しいところ御出席いただき、ありがとうございました。

以上で、淀川区区政会議コミュニティ力向上部会のほうを終了させていただきたい  
と思います。

長時間にわたり、ありがとうございました。

○山本議長

皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございます。